

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「**またも屋根が傷みました**」

慈光じこうしょうご照護のもと、門信徒もんしんとうの皆様にはますますご清祥にお念仏ご相続のこととお慶び申し上げます。今年もお付き合いのお寺の報恩講もすべて終わり、ご門徒さまのお家の報恩講も、希望されている方はほとんど終わりました。まだお返事いただいてない方はご連絡お願い致します。

昨年くわくも庫裏の屋根が老朽化して危険な状態となり、護持会費を使って修理させていただきましたが、今年もまたたいへんなことが発覚しました。実は庫裏くわくの離れ（ご法中方の控え間となる座敷・福井地震で倒壊し、廃材を使って建築したと聞いております）の屋根の雨どいが錆びて壊れ、お隣の壁を雨が直撃するといふ被害があったため、お隣から修理の依頼をされています。大工さんに見てもらったところ、といどころではなく、屋根全体がゆがんで一部は穴もあいている有り様で、とりあえず応急修理をお願いしたところ、「**応急修理などできません。このままでは**

屋根が落ちます！」と

言われました。緊急に役員のみなさまにご了解を得て、護持会費を使わせていただいで修理させていただきます

した。ご門徒のみなさまには事後報告となつてしまい、申し訳ありませんが、どうぞご了承くださいますようお願い申し上げます。毎年毎年、シロアリやら雨漏りやらでみなさまにはご心配をおかけしましております。これも諸行無常と気づかされるところです。このように、護持会のご協力によりましてなんとかお寺を護持運営させていただいております。いつも本当に有り難うございます。



修理前の離れの屋根の状況
一部は穴が開いています。

御正忌にお参りください。
18日（金） 昼2時・夜7時

「**老少不定**」

先日の三国町仏教婦人会の報恩講でもお話ししましたが、宗門校の北陸高校の理事長で、本山の宗会議長の竹田空尊くうそん先生のご長男が29歳の若さで癌のためお浄土に参られました。私もお悔やみに行きましたが、かける言葉が見つかりませんでした。家族や友人が亡くなることはたいへん残念で寂しいことですが、別けても子どもを亡くす悲しみはいかばかりかと思えます。子どものいない私などには想像すらできません。蓮如上人の白骨の御文章には、「**老少不定のさかいなれば、たれの人も、はやく後生ごしやうの一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、念仏申すべきものなり**」と結ばれています。老少不定とは、人の世のはかないことは、年齢に関係なく、お年よりも若い者にも、死は同じように訪れるということです。歳の順ではないということは、頭ではわかっているつもりでも、我が身が悲しい縁に遇あわなにかぎり決して本當にわかることはないのでしょうか。
日本に住んでいるとなかなかわかりません

が、世界では一日に四万人の人が餓死しています。世界中の九人に一人が飢餓状態だということ。シリアの空爆でも一般市民がたくさん亡くなっています。パリの同時多発テロでも若者を含め多くが亡くなりましたが、パリどころではない現実が大きく報道されません。世界中に子どもを亡くして絶望の淵にいます。両親がたくさんいることも忘れてはならないと思います。

私たちは無常の世に生きています。思い通りにならない人生をすったもんだして生きています。ですから誰もみな、往生浄土（阿弥陀仏の浄土に往生生まれること）を心にかけて、阿弥陀仏におまかせしてお念仏申す生き方こそ大切なのだと思います。それこそが、親鸞聖人が恩徳讃に書かれています、「身を粉にしても報ずべし、骨を砕きても謝すべし」という、自分にできることを、限られた時間一杯に努力していくという人間らしい生き方なのだろうと感じています。

などと偉そうなことを書いて読み返して恥ずかしくなりました。そんな生き方がまったくできていないのはこの私でありました。欲しいものを買ひ、食べたいものを食べ、お参りのないときはだらだらと過ごし、この寺報も御正忌ギリギリという有り様です。なんとかこの状況を抜け出して、しつかりと住職の仕事をしていきたいと思うところです。

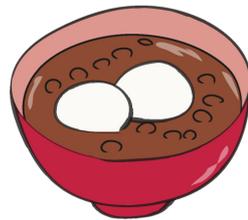
「御正忌が厳修されます」

日	14時〜	19時〜
18日 (金)	速夜 正信偈行譜 法話二席	初夜 正信偈草譜 御伝鈔拝読 法話一席

ご法話

福井市教應寺住職
本願寺布教使
奥田 順誓師です。

私たちに、南無阿弥陀仏のみおしえを教えてください。さつた親鸞聖人のご命日をご縁に勤めさせていたたく御正忌。今年は七百五十四回忌です。今年も昼夜ともに温かいぜんざいがふるまわれます。



また、「御伝鈔」とは、親鸞聖人のひ孫さんに当たる覚如上人（本願寺第三代ご門主）が、親鸞聖人の三十三回忌をご縁に聖人のご生涯を著されたものです。私が拝読いたします。また、内陣の余間には、聖人のご生涯を絵で表した「御絵伝」がかけられています。ぜひご覧になっていただき、聖人のご苦勞を共に偲びたいものです。寒い時期ではあります。が、皆様お誘い合わせの上お参りください。

ぜんざい目当てでも大歓迎です。今年も私がお心を込めて作ります。

「仏教婦人会に参加しましょう」

三国町の仏教婦人会では、会員になっていただくご門徒さまを熱烈歓迎しています。西光寺には寺独自の婦人会組織がありません（過去には「尼講」という名前が存在したらしい形跡が、寺の道具に残っています）。ですから、女性の多くのご門徒さまに仏教婦人会に参加していただきたいのです。私も月参りの折りなどにまたお話しさせていただきます。みなさまのご先祖が選びとってくださいました浄土真宗、または、縁あつて浄土真宗の家に嫁がれたみなさま。せっかく仏法に遇わせていただくご縁をいただいたのに、参加しないのはもったいないことです。南無阿弥陀仏は、他でもないこの私を救わんがために仕上がってくださいましたことを共に聴かせていただき、みなさんで和氣あいあいと仏恩報謝の毎日を送ろうではありませんか。

では、御正忌でお会いしましょう！
住職 内嶋淳浩（うちじま あつひろ）
090-8967-7902

メールアドレス

soichiro4989@gmail.com

※携帯電話に登録しましょう！